



JFRL 情報宅配

* 農林水産省 * (<http://www.maff.go.jp/>)

1. 令和 4 年度の事業系食品ロス量が削減目標を達成！ (令和 6 年 6 月 21 日 新事業・食品産業部外食・食文化課食品ロス・リサイクル対策室)
<https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/recycle/240621.html>
2. 「食生活・ライフスタイル調査～令和 5 年度～」の結果公表について (令和 6 年 6 月 28 日 大臣官房政策課食料安全保障室) <https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/240628.html>
3. 食育イベント全国キャラバンを実施します！ (令和 6 年 6 月 28 日 消費・安全局消費者行政・食育課) <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/hyoji/240628.html>

* 厚生労働省 * (<https://www.mhlw.go.jp/>)

1. 「親子で知ろう！学ぼう！考えよう！食べものの安全」をテーマとした取組みについて (令和 6 年 7 月 4 日 健康・生活衛生局 食品監視安全課 ほか) 宮城, 東京, 大阪にて開催
https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/1111212865_00037.html
2. 「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律施行令の一部を改正する政令」が閣議決定されました (令和 6 年 7 月 5 日 医薬局 医薬品審査管理課 化学物質安全対策室)
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_41043.html

* 内閣府 食品安全委員会 * (<https://www.fsc.go.jp/>)

1. 「有機フッ素化合物 (PFAS)」の評価に関する情報
https://www.fsc.go.jp/osirase/pfas_health_assessment.html
 - ・「有機フッ素化合物 (PFAS)」評価書に関する Q&A (2024 年 6 月 25 日更新)
 - ・ PFAS のリスク評価, その意味は? 姫野誠一郎座長インタビュー (2024 年 6 月 26 日更新)
2. 食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価 (「自ら評価」) の案件候補の募集について (令和 6 年 7 月 1 日 内閣府食品安全委員会事務局)
https://www.fsc.go.jp/iken-bosyu/pc1_kikaku_selftasking_060701.html

* 消費者庁 * (<https://www.caa.go.jp/>)

1. 食品表示の適正化に向けた取組について (令和 6 年 6 月 27 日 食品表示課食品表示対策室)
<https://www.caa.go.jp/notice/entry/038469/>
2. 第 9 回食品ロス削減推進会議が 7 月 2 日に開催されました (消費者教育推進課)
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/meeting_materials/review_meeting_002/038612.html
3. 令和 6 年度第 2 回食品衛生基準審議会が 7 月 3 日に開催されました (食品衛生基準審査課)
 - ・食品添加物の規格基準の改正について (メチルセルロース, 二炭酸ジメチル)
 - ・器具及び容器包装の規格基準の改正について (既存物質のポジティブリストへの物質の追加等)https://www.caa.go.jp/policies/council/fssc/meeting_materials/review_meeting_001/038583.html
4. 令和 6 年度第 1 回日本版包装前面栄養表示に関する検討会の開催について (2024 年 07 月 11 日食品表示課) 開催日: 令和 6 年 7 月 24 日 (水) ライブ配信 (傍聴は事前申込不要)
<https://www.caa.go.jp/notice/entry/036572/>
5. 機能性表示食品のうち天然抽出物等を原材料とする錠剤, カプセル剤等食品の製造又は加工の基準(案)に関する意見募集について (2024 年 07 月 12 日 食品表示課)
<https://www.caa.go.jp/notice/entry/038725/>

* 今月のトピックス *

[サステナビリティへの取り組み]

弊財団は 2016 年に国連グローバル・コンパクトに署名し, 積極的に SDGs の達成に向けて取り組んできました。昨年度は国際的なサステナビリティ評価機関である EcoVadis からブロンズメダルの評価を得ています。



詳細は下のリンクのとおりですが、今回はその中で、環境への取り組みをご紹介します。

[◇ サステナビリティ報告書 2023](#)

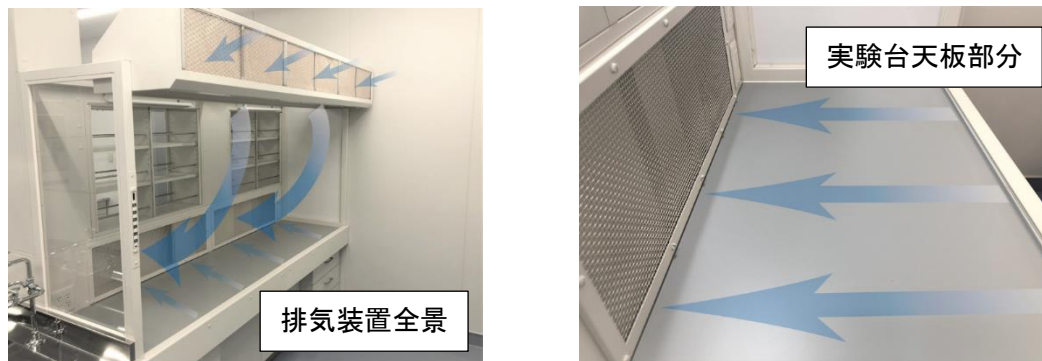
[◇ EcoVadis 表彰ページ](#)

弊財団は、環境への取り組みとして、事業規模が最大の多摩研究所において、環境マネジメントシステム（EMS）の枠組みを活用し、資源の節約・エネルギーの効率化、廃棄物の削減、リサイクルの推進を行っています。

分析試験では目的物質の抽出、精製等の工程で、有機溶剤や酸、アルカリなどの化学物質を使用します。安全性と衛生面を考慮した設備とともに、環境に配慮した化学物質の適切な使用と管理が課題となります。

2022年3月に新設した多摩研究所 衛生科学センター 先端技術棟では、高効率の機器の導入や空調温度の最適化により、エネルギー消費の抑制に努めています。この先端技術棟では、メーカーと共同開発したプッシュプル型局所排気装置を各フロアの実験台に設置しました。図のように、上面及びサッシ手前からのエア（プッシュ）と実験台奥側の排気（プル）により、プッシュプル型局所排気装置（換気装置）の規格に定める面風速0.2 m/s以上を確保しながら、有機溶媒を用いた試験操作に必要なスペースと作業性を確保し、安全性と衛生面にも配慮しています。この装置は、今後、既存の排気装置の入れ替えも含め、弊財団内に順次導入していく計画です。

図 プッシュプル型局所排気装置：矢印は空気の流れ。作業性を確保しながら、確実に排気を行える。



試験操作では、有機溶剤、劇物、毒物の使用量を減らすため、比色法などの古典的な分析方法から、感度に優れ低濃度まで検出できる分析機器の導入を進めています。抽出や精製の工程では、塩素系有機溶剤であるクロロホルムがよく用いられますが、スケールダウンにより使用量を削減したり、クロロホルムを使用しない方法を開発したりしています。金属分析ではICP質量分析装置のような高感度な機器を使用することで、抽出や精製の工程を省略し、複数の元素を同時に分析することが可能となります。

一般的に測定物質が低濃度になると、分析結果の再現性が低下し、確認のための再試験数が増えてしまいます。試験操作や分析装置の条件を検討し最適化することで、結果の再現性を高めることができれば、試験ごとに使用する試薬を減らすことができ、また、測定に従事する職員の労働時間の短縮にもつながります。こうして得られた知見、成果は今後学会や論文、技術成果発表会等でも積極的にお知らせしていく予定です。

☆お知らせ☆

- 第13回一般財団法人日本食品分析センター技術成果発表会（10月23日開催）
本年も皆様のご要望にお応えし、会場・オンライン併用のハイブリットでの開催を予定しています。申し込み開始は8月下旬です。ご参加お待ちしております。
- 学会発表

- [日本食品科学工学会 第71回大会](#) 2024年8月29日～31日 名城大学 天白キャンパス
[2Ap-05] LC-MS/MSを使用した食品中のピロキノリンキノン分析における抽出および精製時の回収率の向上
[2Ap-06] 食品全般に適用可能なLC-MS/MSを用いたベタインの分析法開発及び市販食品の含有量調査
[2Cp-01, 2Cp-02] 定量NMRによるカロテノイド類の迅速・高精度分析法の開発(1)(2)
- [第71回日本栄養改善学会学術総会](#) 2024年9月6日～8日 大阪公立大学 杉本キャンパス
[P2-1-11] 評価方法の違いによる栄養価の比較（日本食品標準成分表を基に）※ポスター発表

